

V-Campus 7th 更新

－ p1.回線 －

1. 概要

p1.回線の課題である「回線コストの削減」および、「バックアップ回線の帯域増強」を目的に改修を実施。

(1).回線コストの削減

V-Campus 6th Stage では、回線の信頼性確保を最優先としたため、拠点間の回線に全て専用線を採用することで、V-Campus 5th Stage と比べ安定した通信帯域を確保してきた。

ただ、今後4年間での全回線の運用を見据え、コストメリットの高い回線を広く募集した結果、これまでと同様以上の品質を維持しつつ、データセンター構内配線の利用による専用線コストと、キャンパスと SINET 間接続を同一都県接続とすることで県間中継設備利用料を削減した。

(2).バックアップ回線の帯域増強

V-Campus 6th Stage で、商用回線から SINET 回線の2重化により回線費用を削減できたが、同回線の帯域幅上限が1 Gbps だったため、インターネット利用増に伴い帯域を超える恐れがあった。

V-Campus 7th Stage では、商用 VPN 回線を多重化することで、費用を抑えつつ最大3 Gbps の帯域を確保した。

p2. IDC の新拠点と合わせた導入としてコスト削減を実現した。

2. ポイント

今回の更新で、各拠点間ネットワークを10Gbps の帯域を維持しつつ、運用費用を抑えることができた。

また、池袋と新座のキャンパス間回線も、今後の通信増を想定しても3 Gbps 専用線で十分な帯域を確保できた。さらに回線を多重化したことにより、万一の機器故障への冗長性を確保できた。

3. p1. 回線まとめ

更新作業に於いて、支障なくスムーズに更新が完了した。

今回の更新で、回線に関連する懸念は解消されたが、さらなる費用減の有効策について継続して情報収集を行う。

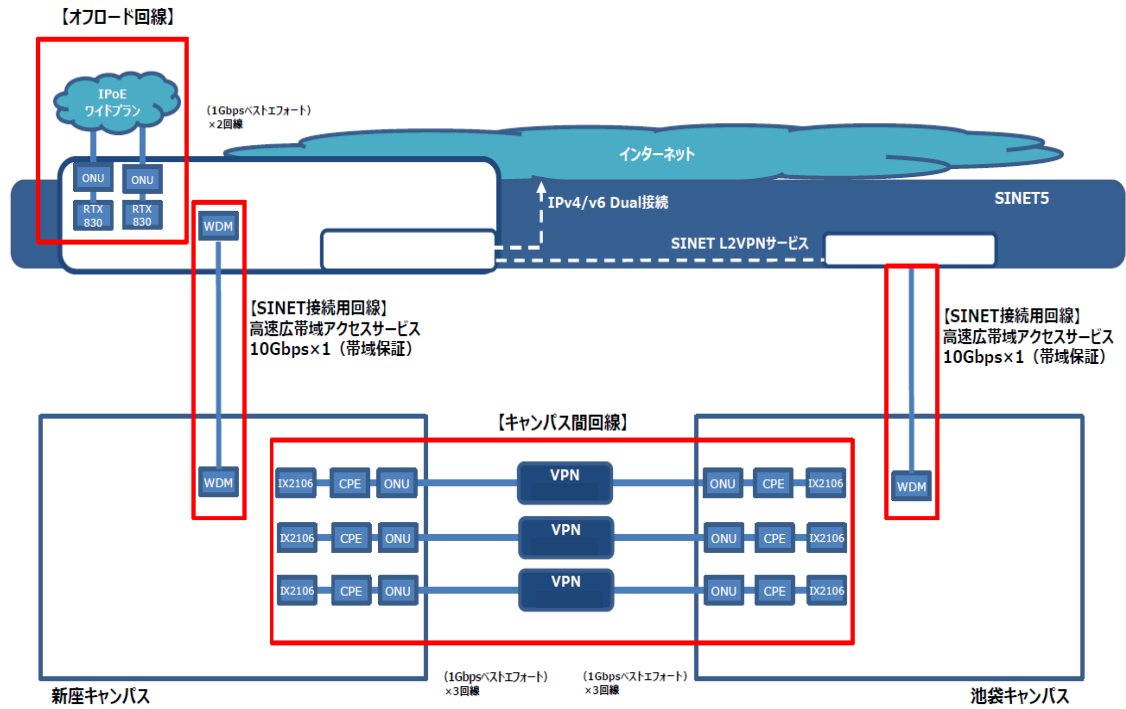


図 1 : 回線 概要図